

哲学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
哲学特論Ⅳ	日本哲学の現状と展望―「私と 汝」関係の諸問題を参考に	2	上原 麻有子	後期集中 その他 連講	
生命環境倫理学特論Ⅰ	研究の倫理とコミュニケーション	2	原 塑	後期 金曜日 5講時	
哲学総合演習Ⅰ	哲学研究の作法と技法 1	2	直江 清隆・原 塑・城戸 淳	前期 月曜日 5講時	
哲学総合演習Ⅱ	哲学研究の作法と技法 2	2	直江 清隆・原 塑・城戸 淳	後期 月曜日 5講時	
哲学研究演習Ⅰ	科学・技術の哲学	2	直江 清隆	前期 火曜日 3講時	
哲学研究演習Ⅱ	科学・技術の哲学	2	直江 清隆	後期 火曜日 3講時	
哲学研究演習Ⅲ	アーレント『精神の生』講読	2	森 一郎	前期 金曜日 3講時	
哲学研究演習Ⅳ	コースガード『目的の国をつく る』講読	2	城戸 淳	前期 木曜日 2講時	
哲学研究演習Ⅴ	ロックと18世紀の人格同一性 論	2	城戸 淳	後期 木曜日 2講時	
古代中世哲学研究演習Ⅰ	アリストテレス『動物の運動に ついて』を読む	2	文 景楠	前期 月曜日 4講時	
古代中世哲学研究演習Ⅱ	アリストテレス『動物の運動に ついて』を読む	2	文 景楠	後期 金曜日 3講時	
近代哲学研究演習Ⅰ	カント『純粋理性批判』研究	2	城戸 淳	前期 水曜日 5講時	
近代哲学研究演習Ⅱ	カント『純粋理性批判』研究	2	城戸 淳	後期 水曜日 5講時	
現代哲学研究演習Ⅰ	現象学研究	2	直江 清隆	前期 火曜日 5講時	
現代哲学研究演習Ⅱ	現象学研究	2	直江 清隆	後期 火曜日 5講時	
科学哲学研究演習Ⅰ	哲学のメソッド	2	原 塑	前期 金曜日 4講時	
科学哲学研究演習Ⅱ	記号論理学	2	原 塑	後期 金曜日 4講時	
生命環境倫理学研究演習Ⅰ	情報倫理学の諸問題	2	原 塑	前期 金曜日 5講時	

科目名：哲学特論Ⅳ／ Philosophy(Advanced Lecture)Ⅳ

曜日・講時：後期集中 その他 連講

Semester：2 学期集中 単位数：2

担当教員：上原 麻有子

コード：LM98819, 科目ナンバリング：LIH-PHI601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：日本哲学の現状と展望—「私と汝」関係の諸問題を参考に
2. Course Title (授業題目)：Current States and Perspectives in Japanese Philosophy—With Reference to the Problems of “I and Thou” Relation
3. 授業の目的と概要：日本哲学という分野の研究は、近年の外国人研究者による加速的な展開や日本での刊行物の増加を鑑み、新たな発展段階に入ったと言えそうだ。講義ではまず、日本哲学がどのような課題に取り組んできたのかを分析する。その上で、一つの例として「私と汝」関係の系譜に焦点を当て、自覚、対話、身体、表現、存在、非対等などの問題を引き出し、論じる。この系譜の起点を西田幾多郎の論文「私と汝」(1932 年)に置き、当時、西田の周辺にいた京都学派の哲学者、田辺元、九鬼周造、和辻哲郎、三木清などの自他関係論と比較する。さらに、今の複雑化した社会が抱える「私と汝」関係の困難や新たな問題に視線を向け、哲学理論の有効性や意義について検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The research of the field of Japanese philosophy seems to have entered a new stage in recent years, with its rapid development promoted by the scholars of Japanese philosophy outside Japan and the increase in the publications in Japan. This lecture will focus on the analysis of the kinds of problems Japanese philosophy has treated, in particular we will focus on a genealogy of the notion of the “I and Thou” relation. We will then bring out and examine the philosophical issues such as self-awakening (自覚), dialogue, body, expression, being, and non-equality. We will set a starting point of this genealogy at Nishida Kitarō’s article entitled “I and Thou” (1932), and we will compare the theories of the “self and other” with other similar theories that have been advanced respectively by Tanabe Hajime, Kuki Shūzō, Watsuji Tetsurō or Miki Kiyoshi who surrounded Nishida in that period. Moreover, this study will attempt to examine the effectiveness and the significance of the philosophical theory of “self and other” by examining the difficulties and new problems for the relationship between “I and Thou” in the context of today’s complex society.
5. 学習の到達目標：西田の論文「私と汝」の意義を評価し、この自他論を批判的に乗り越えようとした田辺の立場、ほか九鬼、和辻、三木の哲学を「私と汝」論と関係させて読み直すことで、日本哲学における一つの系譜を浮き彫りにする。この作業を通して、それぞれの哲学者の根本的思想を比較的に理解する。さらに、このような自他関係に関する哲学理論を現実の社会の実践問題に照らし、授業中の議論を通して自ら考える力を養う。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The students will be able to trace a genealogy of the “I and Thou” in Japanese philosophy through examining the significance of Nishida’s notion of “I and Thou”, as well as reinterpreting Tanabe’s standpoint (of trying to overcome critically the “self and other” theory) and the philosophical thoughts of Kuki, Watsuji and Miki (with reference to the “I and Thou” theory). They will be able to understand each of these philosopher’s fundamental approach. Moreover, they will improve their ability to think philosophically about the “self and other” theories by themselves during the class discussions through referring to practical problems of the actual society.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
以下のような課題を通して考察を深めてゆく。
 - 1 ガイダンス—趣旨説明、「日本哲学」研究の現状
 - 2 日本哲学研究における課題
 - 3 西田幾多郎の「私と汝」の概要—自覚という問題
 - 4 「私と汝」における対話—上田閑照の解釈
 - 5 田辺元の「私と汝」批判—「社会存在の論理」との比較
 - 6 田辺元の「私と汝」批判—「実存協同」との比較
 - 7 現代社会における「私とあなた」の関係性の困難
 - 8 ジェシカ・ベンジャミンの性差ある自他関係、「私と汝」の対等性
 - 9 九鬼周造の「いき」な関係
 - 10 和辻哲郎の「間柄」
 - 11 三木清の人間関係
 - 12 「私と汝」の身体表現
 - 13 廣松渉—「表情」
 - 14 日本哲学における「私と汝」の系譜
 - 15 総論と総合議論
8. 成績評価方法：
平常点 50%とレポート試験(集中講義終了後) 50%による。
9. 教科書および参考書：
特定の教科書は使用しないが、講義前に講義要旨・資料を配付する。参考図書は以下の通り。
上田閑照『私とは何か』岩波新書、2006 年(2000 年)

九鬼周造『「いき」の構造』藤田正勝全注解、講談社学術文庫、2005年（2003年）

田辺元『田辺元哲学選 I 種の論理』岩波文庫、2010年

田辺元『田辺元哲学選 I 種の論理』岩波文庫、2010年

西田幾多郎『近代日本思想選 西田幾多郎』小林敏明編、ちくま学芸文庫、2020年

廣松渉『表情』弘文堂、1991年

10. 授業時間外学習：集中講義（3～4コマ×4日間の予定）であるため、日々、翌日使用する参考書の予習と講義資料の復習を行ってください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：生命環境倫理学特論 I / Bio-Environmental Ethics (Advanced Lecture) I

曜日・講時：後期 金曜日 5 講時

Semester：2 学期 単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LM25502, 科目ナンバリング：LIH-PHI602J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：研究の倫理とコミュニケーション

2. Course Title (授業題目)：Research Ethics and Science Communication

3. 授業の目的と概要：この授業では、研究倫理と科学コミュニケーションという二つの内容を扱います。本来、研究倫理は研究を倫理的観点から規制する学問、科学コミュニケーションは研究の内容を社会に伝え、科学への社会からの支持を調達する活動であって、これら是对立的関係に立ちます。しかし、現在では、研究に対する社会からの要望や懸念を研究者と市民が共有し、それを研究者が考慮しつつ研究活動を行うことが研究の倫理的信頼性と研究に対する社会からの支持を高めると考えられるようになり、融合が進んでいます。そこで、この授業は、研究倫理の観点を考慮しつつ、科学コミュニケーションについて講義します。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this class, we will cover two topics: research ethics and science communication. Originally, research ethics was the study of regulating research from an ethical perspective, and science communication was the activity of communicating the content of research to society and procuring public support for science. However, nowadays, they are increasingly merging, with researchers and citizens sharing society's demands and concerns about research, and researchers taking these into account in their research activities, which is believed to enhance the ethical credibility of research and society's support for research. Therefore, this class will lecture on science communication, taking into account the perspective of research ethics.

5. 学習の到達目標：1. 科学コミュニケーションの基礎理論とその問題点を理解する。

2. 東日本大震災、コロナ禍で行われた科学コミュニケーションの特徴と問題点を理解する。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. to understand the basic theory of science communication and its problems

2. To understand the characteristics and problems of science communication in the Great East Japan Earthquake and the Corona Disaster.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この授業は講義形式で、以下の内容を扱います。
対面とオンラインを併用します。

1. インTRODクシヨン

2～7. 科学コミュニケーションの理論

8・9. 東日本大震災と科学コミュニケーション

10・11. あいちトリエンナーレ 2019 と科学コミュニケーション

12・13. コロナ禍と科学コミュニケーション

14. 科学コミュニケーションの新しい課題

15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席し、課題を提出する (60%)、レポート (40%)

9. 教科書および参考書：

なし

10. 授業時間外学習：授業中に配布する資料をよく読んでおいてください。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：哲学総合演習 I / Seminar in Philosophy I

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：直江 清隆・原 壘・城戸 淳

コード：LM11504, 科目ナンバリング：LIH-PHI606J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：哲学研究の作法と技法 1

2. Course Title (授業題目)：Philosophy (Advanced Seminar) I

3. 授業の目的と概要：口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を養う。

参加者は自由に自らの研究テーマを設定し、協議して決めた発表日までに、発表論文および発表資料（レジュメ等）を作成する。

発表の場では、発表者によるプレゼンテーションに続いて、参加者の中から予め指定された特定質問者を中心に、全員で自由な討論を行い、また教員からのコメントを受ける（哲学専攻分野の教員は可能な限り全員が出席する）。

参加者は研究発表を行うことを通して、研究テーマの発見、論文作成および発表の方法、討論の仕方等について、基礎的なトレーニングを積む。

また、特定質問者の役割を果たすことや、討論に積極的に参加することを通して、他者の主張を適切に把握し、批判・評価し、建設的な議論を行う力を養う。

哲学専攻分野の大学院学生は可能な限り全員が履修することが望ましい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to express and deepen their philosophical thoughts through presentation and discussion.

5. 学習の到達目標：口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to structure philosophical discussions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション
2. 報告と討論 (1)
3. 報告と討論 (2)
4. 報告と討論 (3)
5. 報告と討論 (4)
6. 報告と討論 (5)
7. 報告と討論 (6)
8. 報告と討論 (7)
9. 報告と討論 (8)
10. 報告と討論 (9)
11. 報告と討論 (10)
12. 報告と討論 (11)
13. 報告と討論 (12)
14. 報告と討論 (13)
15. 報告と討論 (14)

8. 成績評価方法：

方法

研究発表をすること（単位認定のためには必須）

その上で、

発表内容 35%

討論へ参加 30%

討論の内容 35%

9. 教科書および参考書：

特に指定しない。

10. 授業時間外学習：報告者は前の週の金曜日までに原稿を用意する。

特定質問者および参加者はそれをもとに事前に質問事項を用意する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：哲学総合演習Ⅱ／ Seminar in PhilosophyⅡ

曜日・講時：後期 月曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：直江 清隆・原 壘・城戸 淳

コード：LM21504, 科目ナンバリング：LIH-PHI607J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：哲学研究の作法と技法 2

2. Course Title (授業題目)：Philosophy (Advanced Seminar)Ⅱ

3. 授業の目的と概要： 口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を養う。

参加者は自由に自らの研究テーマを設定し、協議して決めた発表日までに、発表論文および発表資料（レジュメ等）を作成する。

発表の場では、発表者によるプレゼンテーションに続いて、参加者の中から予め指定された特定質問者を中心に、全員で自由な討論を行い、また教員からのコメントを受ける（哲学専攻分野の教員は可能な限り全員が出席する）。

参加者は研究発表を行うことを通して、研究テーマの発見、論文作成および発表の方法、討論の仕方等について、基礎的なトレーニングを積む。

また、特定質問者の役割を果たすことや、討論に積極的に参加することを通して、他者の主張を適切に把握し、批判・評価し、建設的な議論を行う力を養う。

哲学専攻分野の大学院学生は可能な限り全員が履修することが望ましい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course aims to improve the students' ability to express and deepen their philosophical thoughts through presentation and discussion.

5. 学習の到達目標：口頭発表と討論を通して、哲学的思考力、判断力および表現力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to structure philosophical discussions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. オリエンテーション

2. 報告と討論 (1)

3. 報告と討論 (2)

4. 報告と討論 (3)

5. 報告と討論 (4)

6. 報告と討論 (5)

7. 報告と討論 (6)

8. 報告と討論 (7)

9. 報告と討論 (8)

10. 報告と討論 (9)

11. 報告と討論 (10)

12. 報告と討論 (11)

13. 報告と討論 (12)

14. 報告と討論 (13)

15. 報告と討論 (14)

8. 成績評価方法：

方法

研究発表をすること（単位認定のためには必須）

その上で、

発表内容 35%

討論へ参加 30%

討論の内容 35%

9. 教科書および参考書：

特に指定しない。

10. 授業時間外学習：報告者は前の週の金曜日までに原稿を用意する。

特定質問者および参加者はそれをもとに事前に質問事項を用意する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：哲学研究演習 I / Philosophy(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LM12308, 科目ナンバリング：LIH-PHI610J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：科学・技術の哲学
2. Course Title (授業題目)：Seminar on philosophy of science and philosophy
3. 授業の目的と概要：現在の技術哲学の基礎文献を読み、基礎的な問題構成を理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to read the basic literature on the philosophy of technology
5. 学習の到達目標：・現代の技術哲学の基本概念について説明をすることができる。
・現代の技術哲学に孕む様々な問題とその解決方について論じることができる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：・Explain the essential concepts of the philosophy of technology
・Discuss the fundamental issues in the philosophy of technology
7. 授業の内容・方法と進度予定：
マーク・クケルバーク『技術哲学講義』直江清隆，久木田水生監訳，丸善出版，2023を取り上げ、現在の技術哲学の先端について議論する。必要に応じて、関連する1～2の論文を取りあげる。
 - 1, オリエンテーション
 - 2, 歴史と背景(1)
 - 3, 歴史と背景(2)
 - 4, 現象学と解釈学(1)
 - 5, 現象学と解釈学(2)
 - 6, ポスト現象学、物質的解釈学、媒介理論(1)
 - 7, ポスト現象学、物質的解釈学、媒介理論(2)
 - 8, 批判理論とフェミニズム(1)
 - 9, 批判理論とフェミニズム(2)
 - 10, プラグマティズム、分析的アプローチ、文化横断的哲学(1)
 - 11, プラグマティズム、分析的アプローチ、文化横断的哲学解(2)
 - 12, 情報技術から哲学、そして情報倫理へ(1)
 - 13, 情報技術から哲学、そして情報倫理へ(2)
 - 14, ロボット工学と人工知能
 - 15, まとめ
8. 成績評価方法：
レポート(報告を含む) 80% 授業への参加(討論) 20%
9. 教科書および参考書：
教科書 マーク・クケルバーク『技術哲学講義』直江清隆，久木田水生監訳，丸善出版，2023(Marck Coeckelbergh, Introduction to philosophy of technology, 2020)、ほかの使用文献(日、英)は適宜配布する。
10. 授業時間外学習：事前にテキストを読み、議論に備える。また、授業での方向、議論をもとに、振り返って考察する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：哲学研究演習Ⅱ／ Philosophy(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LM22305, 科目ナンバリング：LIH-PHI611J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：科学・技術の哲学
2. Course Title (授業題目)：Seminar on philosophy of science
3. 授業の目的と概要：現在の科学哲学の基礎文献を読み、基礎的な問題構成を理解する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to read the basic literature on contemporary philosophy of science and help students to acquire an understanding of the fundamental principles of philosophy of science.
5. 学習の到達目標：・現代の科学哲学の基本概念について説明をすることができる。
・現代の科学哲学に孕む様々な問題とその解決方について論じることができる
6. Learning Goals(学修の到達目標)：・Explain the essential concepts of contemporary philosophy of science
・Discuss the fundamental issues in contemporary philosophy of science
7. 授業の内容・方法と進度予定：
サミール・オカーシャ『科学哲学 第二版』(Samir Okasha, Philosophy of Science : a very short introduction, 2nd ed., 2014) を手がかりに、関連する1～2の論文を取りあげ、議論する。(後半で取りあげる論文には、Stathis Psillos and Martin Curd(ewd.), The Routledge companion to philosophy of science , Routledge , 2010. - (Routledge companions to philosophy)あたりも候補になる。) 適宜技術哲学の論文も取りあげる。
 - 1, オリエンテーション
 - 2, 科学的推論
 - 3, 科学における説明
 - 4, 实在論と反实在論
 - 5, 科学の変化と科学革命
 - 6, 個別科学の哲学
 - 7, 科学批判
 - 8, 論文読解 (1)
 - 9, 論文読解 (1)
 - 10, 論文読解 (3)
 - 11, 論文読解 (4)
 - 12, 論文読解 (5)
 - 13, 論文読解 (6)
 - 14, 論文読解 (7)
 - 15, まとめ
8. 成績評価方法：
レポート(報告を含む) 80% 授業への参加 (討論) 20%
9. 教科書および参考書：
教科書 サミール・オカーシャ『科学哲学 第二版』廣瀬覚、直江清隆訳、2023 (Samir Okasha, Philosophy of Science : a very short introduction, 2nd ed., 2014)、ほかの使用文献(日、英)は適宜配布する。
10. 授業時間外学習：事前にテキストを読み、議論に備える。また、授業での方向、議論をもとに、振り返って考察する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：哲学研究演習Ⅲ／ Philosophy(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 金曜日 3講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：森 一郎

コード：LM15308, 科目ナンバリング：LIH-PHI612J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アーレント『精神の生』講読
2. Course Title (授業題目)：Reading Arendt: The Life of the Mind
3. 授業の目的と概要：この授業では、ハンナ・アーレントの主著の一つである『精神の生』を精読し、現代における哲学の可能性について考えていく。

*教室での対面授業を実施予定。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We read one of Hannah Arendt's major works, The Life of the Mind, and think about the possibilities of contemporary philosophy.

*I hope to meet all the class members at the real classroom.

5. 学習の到達目標：1. 哲学の古典を精読する醍醐味を味わう
2. じっくりものを考えるということの重要性を理解する。
3. 哲学の歴史に学ぶことの重要性を理解する。
4. 今日的問題を根本的に掘り下げることの重要性を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. To enjoy the pleasure of reading the philosophical classical texts.
2. To learn the significance of thinking radically.
3. To learn the significance of the history of philosophy.
4. To understand the significance of fundamental reflexions on modern human condition.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業の実施形態：対面授業

第1回：ガイダンス

第2回：『精神の生』第1章第8節（その1）第1～6段落

第3回：『精神の生』第1章第8節（その2）第7～12段落

第4回：『精神の生』第1章第8節（その3）第13～17段落

第5回：『精神の生』第2章第9節（その1）第1～5段落

第6回：『精神の生』第2章第9節（その2）第6～9段落

第7回：『精神の生』第2章第9節（その3）第10～14段落

第8回：中間考察

第9回：『精神の生』第2章第10節（その1）第1～6段落

第10回：『精神の生』第2章第10節（その2）第7～13段落

第11回：『精神の生』第2章第11節（その3）第14～18段落

第12回：『精神の生』第2章第11節（その1）第1～5段落

第13回：『精神の生』第2章第11節（その2）第6～9段落

第14回：アーレントの共通感覚論

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

- 1 平常点（出席・質疑応答への参加等）50%、学期末レポート50%で、総合的に評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書はとくに定めず、授業用に用意したプリントを配布し、それに沿って議論する。

参考書：

- ・ Hannah Arendt, The Life of the Mind. One / Thinking, Harcourt Brace & Company, 1978
- ・ 佐藤和夫訳『精神の生活（上）』岩波書店、1994年
- ・ ハンナ・アーレント『活動的生』森一郎訳、みすず書房、2015年
- ・ ハンナ・アーレント『革命論』森一郎訳、みすず書房、2022年
- ・ エリザベス・ヤング＝ブルーエル『ハンナ・アーレント』大島かおり他訳、みすず書房、2021年

10. 授業時間外学習：配布プリント、参考書、関連文献を熟読すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

使用言語：日本語／Language: Japanese

科目名：哲学研究演習Ⅳ／ Philosophy(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LM14213, 科目ナンバリング：LIH-PHI613J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：コースガード『目的の国をつくる』講読

2. Course Title (授業題目)：Korsgaard, Creating the Kingdom of Ends

3. 授業の目的と概要： コースガード『目的の国をつくる』を読む（英語）。コースガードは今日の代表的なカント倫理学の研究者であるが、歴史的に忠実なカント解釈にとどまらず、カント的な発想の現代的な可能性をさまざまに追及している点で際立っている（それは本書の目次にもうかがわれる）。この演習では、本書からいくつかの章を選んで、担当者によるレジュメの形式で発表・討議し、各章ごとに受講生からのコメントを踏まえて考察するものとする。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We read "Creating the Kingdom of Ends" by Christine M. Korsgaard in English. She is one of the leading scholars of Kantian ethics and reveals various contemporary possibilities of Kantian ideas. In this seminar, we select several chapters of the book to examine.

5. 学習の到達目標：英語の哲学論文を読んで、理解し、考察する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To read, understand, and discuss philosophical articles in English.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

Part I. Kant's Moral Philosophy:

1. An introduction to the ethical, political, and religious thought of Kant;
2. Kant's analysis of obligation: the argument of Groundwork I;
3. Kant's formula of universal law;
4. Kant's formula of humanity;
5. The right to lie: Kant on dealing with evil;
6. Morality as freedom;
7. Creating the kingdom of ends: reciprocity and responsibility in personal relations;

Part II. Comparative Essays:

8. Aristotle and Kant on the source of value;
9. Two distinctions in goodness;
10. The reasons we can share: an attack on the distinction between agent-relative and agent-neutral values;
11. Skepticism about practical reason;
12. Two arguments against lying;
13. Personal identity and the unity of agency: a Kantian response to Parfit.

(上記は Creating the Kingdom of Ends の目次。これらの諸論文から3～4本程度を選んで講読する予定。

受講生の関心に応じて決めるが、論文4、論文7、論文10、論文13などが候補になるだろうか。)

8. 成績評価方法：

発表、討議、期末レポートによる。

9. 教科書および参考書：

教科書 Christine M. Korsgaard, Creating the Kingdom of Ends, Cambridge University Press, 1996.

参考書 スースガード『義務とアイデンティティの倫理学——規範性の源泉』寺田・後藤・三谷・竹山訳、岩波書店、2005年。

大庭健編・古田徹也監訳『現代倫理学基本論文集Ⅱ 規範倫理学篇①』勁草書房、2021年（論文3の邦訳を収録）。

10. 授業時間外学習：テキストを予習・復習すること。カントやコースガードのその他の著作を読むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：哲学研究演習V／Philosophy(Advanced Seminar)V

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LM24212, 科目ナンバリング：LIH-PHI614J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：ロックと18世紀の人格同一性論
2. Course Title (授業題目)：Personality Identity: Locke and 18th Century Philosophy
3. 授業の目的と概要：ロックが『人間知性論』第二版(1694)に追加した人格同一性論は、その後さまざまな異論や過激化をのみこみつつ拡大し、大きな哲学的トピックへと成長した。その余波は現代哲学にまで及ぶ。この演習では、おもに邦訳に基づいて、ロックのテキストをあらためて読みなおしたうえで、それ以後の18世紀までの主な人格同一性論を検討する。時間が許せば現代哲学におけるさまざまな議論も検討したい。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The theory of personal identity, discussed in a chapter added by John Locke to the second edition of An Essay Concerning Human Understanding (1694), grew into a major philosophical topic, whose aftermath has reached contemporary philosophy. In this seminar, we will read Locke's text and then examine the major 18th century theories of personal identity since then.
5. 学習の到達目標：ロックの人格同一性論とその後の展開を理解する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will understand Locke's theory of personal identity and its subsequent developments.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1-5 ロック『人間知性論』(1694)の「同一性と差異性について」(II. 27)
 - 6-8 ライブニッツ『人間知性新論』の「同一性と差異性とは何であるか」(II. 27)
 - 9-10 ヒューム『人間本性論』(1739)の「人格の同一性について」(1.4.6)
 - 11-13 カント『純粹理性批判』(1781)の「第三誤謬推理」
 - 14-15 リード『人間の知的能力に関する試論』(1785)の「記憶について」(III)
8. 成績評価方法：

発表、コメント、期末レポートによる。
9. 教科書および参考書：

ロック『人間知性論(二)』大槻春彦訳、岩波文庫、1974年。
ライブニッツ『人間知性新論』米山優訳、みすず書房、1987年。
ヒューム『人間本性論 第1巻 知性について』木曾好能訳、法政大学出版社、1995年。
カント『純粹理性批判(中)』原佑訳、平凡社ライブラリー、2005年。
リード『人間の知的能力に関する試論(上)』戸田綱文訳、岩波文庫、2022年。
参考書 パーフィット『理由と人格—非人格性の倫理へ』森村進訳、勁草書房、1998年。
10. 授業時間外学習：テキストをよく読むこと。そのテキストを含む哲学書や、その他の文献をみずから読むこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：古代中世哲学研究演習 I / Ancient and Medieval Philosophy (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：文 景楠

コード：LM11405, 科目ナンバリング：LIH-PHI615J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アリストテレス『動物の運動について』を読む
2. Course Title (授業題目)：Reading Aristotle's De motu animalium
3. 授業の目的と概要：アリストテレス生物学における重要文献の一つである『動物の運動について』を、近年出版された新たな校訂本と注釈を参照しながら古典ギリシア語で読む。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course serves as an introduction to Aristotle's De motu animalium, one of the most important works in his biology. Students will be required to read the original Greek text with the recent commentaries.
5. 学習の到達目標：アリストテレスの生物学と関連する様々なトピックに親しみ、古代ギリシア哲学をテーマとする論文を執筆するための作法を学ぶ。
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Students will learn the basic topics in Aristotle's biology and become familiar with the research in Ancient Greek Philosophy.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
本授業は演習を中心に進める。内容及び予定は以下のとおりであるが、進捗状況によって若干変更する場合もある。

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 アリストテレス生物学の紹介
- 第 3 回 Rapp の哲学的序論を読む
- 第 4 回 Primavesi の文献学的序論を読む
- 第 5 回 第 1 章原典講読
- 第 6 回 Rapp によるコメンタリーを読む
- 第 7 回 第 1 章討論
- 第 8 回 第 2・3 章原典講読
- 第 9 回 Coope によるコメンタリーを読む
- 第 10 回 第 2・3 章討論
- 第 11 回 第 4・5 章原典講読
- 第 12 回 Morison によるコメンタリーを読む
- 第 13 回 第 4・5 章討論
- 第 14 回 第 6 章原典講読
- 第 15 回 Corcilius によるコメンタリーの読む／レポート構想発表

8. 成績評価方法：
毎回の訳読や討論を含む出席 60%、最終レポート 40%
9. 教科書および参考書：
教員が授業中に配布する。

References are handed out at every class.

10. 授業時間外学習：担当者はレジュメを準備し、積極的に議論に参加することが要求される。
Students should prepare a handout in turn and engage in classroom discussion actively.

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

古典ギリシア語の基本的な知識をもっていることを前提する。「古代中世哲学研究演習 II」と合わせて履修することを勧める。
Students are assumed to be familiar with the essentials of ancient Greek grammar. This course should be taken together with Ancient and Medieval Philosophy (Advanced Seminar) II.

科目名：古代中世哲学研究演習Ⅱ／ Ancient and Medieval Philosophy(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 金曜日 3講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：文 景楠

コード：LM25306, 科目ナンバリング：LIH-PHI616J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：アリストテレス『動物の運動について』を読む
2. Course Title (授業題目)：Reading Aristotle's De motu animalium
3. 授業の目的と概要：古代中世哲学研究演習Ⅰに引き続き、アリストテレス生物学における重要文献の一つである『動物の運動について』を、近年出版された新たな校訂本と注釈を参照しながら古典ギリシア語で読む。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Continuation of Ancient and Medieval Philosophy(Advanced Seminar)I. This course serves as an introduction to Aristotle's De motu animalium, one of the most important works in his biology. Students will be required to read the original Greek text with the recent commentaries.
5. 学習の到達目標：アリストテレスの生物学と関連する様々なトピックに親しみ、古代ギリシア哲学をテーマとする論文を執筆するための作法を学ぶ。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will learn the basic topics in Aristotle's biology and become familiar with the research in Ancient Greek Philosophy.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
本授業は演習を中心に進める。内容及び予定は以下のとおりであるが、進捗状況によって若干変更する場合もある。

第1回 前期の振り返り
第2回 第7章前半部原典講読
第3回 Cooperによるコメンタリーを読む
第4回 第7章前半部討論
第5回 第7章後半部・第8章原典講読
第6回 Hankinsonによるコメンタリーを読む
第7回 第7章後半部・第8章討論
第8回 第9・10章原典講読
第9回 Gregoricによるコメンタリーを読む
第10回 第9・10章討論
第11回 第11章原典講読
第12回 Morelによるコメンタリーを読む
第13回 第11章討論
第14回 Laksによる総括を読む
第15回 振り返りとレポートの構想発表
8. 成績評価方法：
毎回の訳読や討論を含む出席60%、最終レポート40%
9. 教科書および参考書：
教員が授業中に配布する。
References are handed out at every class.
10. 授業時間外学習：担当者はレジュメを準備し、積極的に議論に参加することが要求される。
Students should prepare a handout in turn and engage in classroom discussion actively.
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：
古典ギリシア語の基本的な知識をもっていることを前提する。「古代中世哲学研究演習Ⅰ」と合わせて履修することを勧める。
Students are assumed to be familiar with the essentials of ancient Greek grammar. This course should be taken together with Ancient and Medieval Philosophy(Advanced Seminar)I.

科目名：近代哲学研究演習 I / Modern Philosophy (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 水曜日 5 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LM13509, 科目ナンバリング：LIH-PHI617J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：カント『純粋理性批判』研究
2. Course Title (授業題目)：Kant's Critique of Pure Reason
3. 授業の目的と概要：カントの『純粋理性批判』(1781/87 年)をドイツ語原文で読む。今年度の前期は、「すべての対象一般をフェノメナとヌーメナに区別する根拠について」章にとりくむ。担当者には、訳読に加えて、解釈的な設問に応じてもらう。また、進行に応じて、関連するコメンタリーや研究書・論文などを報告する機会を設ける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We read Kant's Critique of Pure Reason (1781/87) in the original German. In the first semester of this year, we will work on the chapter of "Of the Ground of the Division of all Objects into Phenomena and Noumena". In addition to reading, students will be asked to answer interpretive questions and to report on commentaries or articles on the Phenomena and Noumena.
5. 学習の到達目標：哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To develop the abilities to read and analyse philosophical texts.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
(対面授業のみ)

1 - 15 「すべての対象一般をフェノメナとヌーメナに区別する根拠について」講読
8. 成績評価方法：
訳読、報告、討議、期末レポートによる。
9. 教科書および参考書：
Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.
(他の箇所の参照のために原典の冊子は必須。できれば上記の新哲学文庫版を購入してください。)
10. 授業時間外学習：予習を欠かさずに演習に臨むこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：近代哲学研究演習Ⅱ／ Modern Philosophy (Advanced Seminar) II

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：城戸 淳

コード：LM23508, 科目ナンバリング：LIH-PHI618J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：カント『純粋理性批判』研究
2. Course Title (授業題目)：Kant's Critique of Pure Reason
3. 授業の目的と概要：カントの『純粋理性批判』(1781/87年)をドイツ語原文で読む。今年度の後期は、「反省概念の二義性について」章にとりくむ。担当者には、訳読に加えて、解釈的な設問に答えてもらう。また、進行に応じて、関連するコメントリーや研究書・論文などを報告する機会を設ける。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We read Kant's Critique of Pure Reason (1781/87) in the original German. In the second semester of this year, we will work on the chapter of "the Amphiboly of the Conceptions of Reflection". In addition to reading, students will be asked to answer interpretive questions and to report on commentaries or articles on the Amphiboly.
5. 学習の到達目標：哲学の原典テキストを読みとく忍耐と技法を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To develop the abilities to read and analyse philosophical texts.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
1 - 15 「反省概念の二義性について」講読
8. 成績評価方法：
訳読、報告、討議、期末レポートによる。
9. 教科書および参考書：
Immanuel Kant, Kritik der reinen Vernunft, PhB 505, ed. J. Timmermann, Hamburg: Felix Meiner Verlag, 1998.
(他の箇所の参照のために原典の冊子は必須。できれば上記の新哲学文庫版を購入してください。)
10. 授業時間外学習：予習を欠かさずに演習に臨むこと。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：現代哲学研究演習 I / Contemporary Philosophy (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LM12508, 科目ナンバリング：LIH-PHI619J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現象学研究

2. Course Title (授業題目)：Seminar on Phenomenology

3. 授業の目的と概要：フッサールの『イデーニ II』(構成についての現象学的研究)を読み、身体、自我などの議論を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：The aim of this course is to read Husserl's "Ideas II" (Studies in the Phenomenology of Constitution) and help students to acquire an understanding of the fundamental discussions of embodiment and ego.

5. 学習の到達目標：・現象学の基本概念について説明をすることができる。

・現象学の議論における知覚、身体、自我の役割について論じることができる

6. Learning Goals (学修の到達目標)：After taking this course, participants will be able to：

- Explain the essential concepts of phenomenology

- Discuss the role of perception, embodiment, ego in phenomenological arguments

7. 授業の内容・方法と進度予定：

『イデーニ』(純粹現象学と現象学的哲学のための諸構想)は 20 世紀の最も重要な哲学書の一つに数えられる。『イデーニ I』で現象学的還元やノエシス・ノエマの構造についてプログラムの考察を行った後、本書『イデーニ II』では、「構成についての現象学的研究」として、「自然と精神」に関わる幾つかの重要な問題について具体的な分析が行われる。その哲学・思想への影響は広範囲に及ぶ。

この授業では現象学について概括的な紹介をしたのち、本書の議論をていねいに読み解きながら、知覚、身体、自我といった問題についてのフッサールの議論を検討する。原文はドイツ語であるが、すぐれた英訳や、訳註と解説がついた日本語訳も出ている。授業は、適当な部分ごとに担当者を決め、授業内でテキストを訳読し、議論するかたちで進めるが、同時にこの概念の問題性について議論する。

1、イントロダクション 現象学とは

2、『イデーニ』における現象学的還元

3、『イデーニ』における志向性の問題

4、「構成についての現象学的研究」読解 (1)

5、「構成についての現象学的研究」読解 (2)

6、「構成についての現象学的研究」読解 (3)

7、「構成についての現象学的研究」読解 (4)

8、中間まとめ 間主観的な現実としての自然の構成について

9、「構成についての現象学的研究」読解 (6)

10、「構成についての現象学的研究」読解 (7)

11、「構成についての現象学的研究」読解 (8)

12、「構成についての現象学的研究」読解 (9)

13、「構成についての現象学的研究」読解 (10)

14、「構成についての現象学的研究」読解 (11)

15、まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 50%

平常点 50%(討論などを含む)

9. 教科書および参考書：

E. Husserl. "Ideen", Zweiter Band (Husserliana IV), (Ideas", Second Book) (『イデーニ II-1』立松弘孝ほか訳、みすず書房) 欧文、訳文テキストは授業時に配布する。

参考書は随時紹介するが、翻訳に付けられた訳註と解説はまず有力な参考になる。

欧文の参考書 (例えば、Nenon, Thomas, Issues in Husserl's Ideas II (Contributions to Phenomenology) (Contributions to Phenomenology, 24), 2010) は適宜院生に紹介してもらう。

10. 授業時間外学習：担当でない場合でも予習する。テキストと深く関連する参考図書、関連図書などを利用して、自分なりに取り組んでみる。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：

科目名：現代哲学研究演習Ⅱ／ Contemporary Philosophy(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：直江 清隆

コード：LM22508, 科目ナンバリング：LIH-PHI620J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：現象学研究

2. Course Title (授業題目)：Seminar on Phenomenology

3. 授業の目的と概要：フッサールの『イデーⅡ』（構成についての現象学的研究）を読み、現象学的な知覚、身体、自我などの議論を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The aim of this course is to read Husserl's "Ideas II" (Studies in the Phenomenology of Constitution) and help students to acquire an understanding of the fundamental discussions of embodiment and ego.

5. 学習の到達目標：・現象学の基本概念について説明をすることができる。

・現象学の議論における知覚、身体、自我の役割について論じることができる

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After taking this course, participants will be able to：

- Explain the essential concepts of phenomenology

- Discuss the role of perception, embodiment, ego in phenomenological arguments

7. 授業の内容・方法と進度予定：

前期に続き、『イデーⅡ』を読んで議論する。

1、前期の授業の復習：『イデーⅡ』における有機的世界の構成

2、「構成についての現象学的研究」読解（1）

3、「構成についての現象学的研究」読解（2）

4、「構成についての現象学的研究」読解（3）

5、「構成についての現象学的研究」読解（4）

6、中間まとめ1 身体について

7、「構成についての現象学的研究」読解（5）

8、「構成についての現象学的研究」読解（6）

9、「構成についての現象学的研究」読解（7）

10、「構成についての現象学的研究」読解（8）

11、中間まとめ1 純粹自我について

12、「構成についての現象学的研究」読解（9）

13、「構成についての現象学的研究」読解（10）

14、「構成についての現象学的研究」読解（11）

15、まとめ

8. 成績評価方法：

レポート 50%

平常点 50%(討論などを含む)

9. 教科書および参考書：

E. Husserl. "Ideen", Zweiter Band(Husserliana IV), (Ideas", Second Book)(『イデーⅡ-1』立松弘孝ほか訳、みすず書房) 欧文、訳文テキストは授業時に配布する。

参考書は随時紹介するが、翻訳に付けられた訳註と解説はまず有力な参考になる。

欧文の参考書(例えば、Nenon, Thomas, Issues in Husserl's Ideas Ii (Contributions to Phenomenology) (Contributions to Phenomenology, 24), 2010) は適宜院生に紹介してもらう。

10. 授業時間外学習：担当でない場合でも予習する。テキストと深く関連する参考図書、関連図書などを利用して、自分なりに取り組んでみる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：科学哲学研究演習 I / Philosophy of Science(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：原 壘

コード：LM15406, 科目ナンバリング：LIH-PHI621J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：哲学のメソッド

2. Course Title (授業題目)：How to Write a Philosophy Paper

3. 授業の目的と概要：哲学で論文を執筆するのは難しい。論文を執筆するためには、テーマを決め、そのテーマに関連する文献を集め、それらを読解し、議論状況を確認した後で、いままでの議論には見られない著者独自の視点をもつ議論を組み立てなければならない。だが、特にどのようなテーマで、またどのような仕方でも議論を組み立てれば、著者独自で、〈哲学〉らしい研究になるのだろうか。

この授業では、哲学研究の方法、特に文献の読解・解釈の方法を演習を通じて学ぶ。また、同時並行して、受講者各人に、卒論・修論を執筆するとして、どのようなテーマについて、どのように論じたいかを考えてもらい、その内容を学期の後半の授業中、発表してもらい、受講者全員で討論する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, you will learn how to write a philosophical paper through exercises.

5. 学習の到達目標：1. 哲学論文の分析方法に習熟する。

2. 研究テーマを見つけ、テーマに関連する文献を調査し、著者独自の議論を組み立てることができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. You will be familiar with philosophical methods

2. You will be able to find research themes, examine the literature related to the themes, and make up your own discussions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は、対面、オンライン同期授業として実施する。

学期全体の授業構成は以下を予定している。

1. イントロダクション

2～6. 哲学研究方法論演習

7～9. 文献のまとめ方演習

10～15. 卒論・修論構想発表

8. 成績評価方法：

授業中の課題に取り組む (60%)、研究発表 (40%)

9. 教科書および参考書：

佐々木健一『論文ゼミナール』2014 年、東京大学出版会

戸田山和久『新版 論文教室—レポートから卒論まで』2012 年、NHK 出版会

10. 授業時間外学習：論文執筆を目的として授業時に課される課題と取り組む。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

授業の具体的な進め方については初回授業時に説明する。

この授業は基本的には哲学専修・倫理学専修 3 年次の学生向けであるが、哲学・倫理学を専門とする博士前期課程大学院生も出席してもよい。ただ、この授業を受講することで、毎週月曜 5 限に実施している演習を代替することはできない。また、他の分野を専門とする大学院生で、この授業を受講することを希望する者は授業担当教員に相談すること。

科目名：科学哲学研究演習Ⅱ／ Philosophy of Science(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

semester：2 学期 単位数：2

担当教員：原 壱

コード：LM25407, 科目ナンバリング：LIH-PHI622J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：記号論理学

2. Course Title (授業題目) : Formal Logic

3. 授業の目的と概要：一階述語論理の言語に習熟するとともに、タブローによる妥当性のチェック方法を学び、そのスキルを使用して日本語による推論の妥当性を検討できるようにすることがこの授業の目的である。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The purpose of this course is to learn the language of first-order logic, learn how to check the validity of a tableau, and use that skill to examine the validity of inference in Japanese.

5. 学習の到達目標：1. 記号論理学の背景にある基本的な考え方、概念を理解する。

2. 記号の操作法を身につける。

3. 日本語の推論の妥当性を検討する能力を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : 1. Understand the basic concepts of formal logic.

2. Learn how to operate symbols.

3. To acquire the ability to examine the validity of inference in Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目は主に対面授業として実施する。

学期を通じた授業の構成として以下を予定している。

1. イントロダクション
2. 記号について
3. 命題について
4. 命題の意味
5. 推論の妥当性
6. タブロー 1
7. タブロー 2
8. 多重量化
9. 自然言語から型式言語への翻訳
10. 数の数え方
11. 日本語による推論の妥当性 1
12. 日本語による推論の妥当性 2
13. 日本語による推論の妥当性 3
14. タブローの健全性と完全性
15. まとめ

8. 成績評価方法：

出席し、課題を提出する (60%)、テスト (40%)

9. 教科書および参考書：

加藤浩、土屋俊『記号論理学』放送大学教育振興会、2014 年

丹治信春『論理学入門』筑摩書房、2014 年

10. 授業時間外学習：自宅で、テキストを予習し、課題と取り組むこと

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：生命環境倫理学研究演習 I / BioEnvironmental Ethics(Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：原 壱

コード：LM15503, 科目ナンバリング：LIH-PHI623J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：情報倫理学の諸問題
2. Course Title (授業題目)：Issues in Information Ethics
3. 授業の目的と概要：この授業では身体美の規範に関わる情報をもたらす倫理的問題を考察します。身体美の規範は、化粧品や脱毛、ダイエットなど美容広告だけではなく、あらゆる文化的表現を通じて広く社会に拡散され、個々人の身体イメージとアイデンティティに多大な影響を与えています。この問題を考えるために、イギリスの応用倫理学者、Heather Widdows の著作、Perfect Me--Beauty as an Ethical Ideal (Princeton University Press: 2018) を読み、議論します。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This class examines the ethical issues raised by information related to beauty norms. Norms of physical beauty are widely diffused in society through not only beauty advertisements, but, in practice, all cultural expressions, and have a profound impact on individual body image and identity. To consider this issue, we will read and discuss the work of British applied ethicist Heather Widdows, Perfect Me--Beauty as an Ethical Ideal (Princeton University Press: 2018).
5. 学習の到達目標：身体美に関わる規範の倫理的問題を理解する。
哲学文献の読解に習熟する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To understand the ethical issues of beauty norms.
To become familiar with reading philosophical texts.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
Heather Widdows, Perfect Me--Beauty as an Ethical Ideal (Princeton University Press: 2018) の一部を読みます。授業形態としては、対面を原則として、オンラインでの授業参加を認める方向で考えています。
授業計画は以下の通りです。最初、ルッキズムについて解説、議論した後で(1回~3回授業)、この本の部分(おそらく、Chap. 7 と 8) を読みます(4回~15回授業)。
8. 成績評価方法：
課題(60%)、レポート(40%)
9. 教科書および参考書：
Heather Widdows, Perfect Me--Beauty as an Ethical Ideal (Princeton University Press: 2018)
10. 授業時間外学習：書籍を読み、関連事項を調べ、文章にまとめておいてください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：